

5/17 開催 こども・若者ミライラボ 聴講者の方のご感想（一部抜粋）

○良かった点

- ・体験に基づいたお話が聞けて貴重な時間を過ごすことができた
- ・あまり堅苦しくない雰囲気良かったと思う
- ・横手市が不登校や悩みのある子どもの支援に力を入れているのが伝わった
- ・不登校を体験してカウンセラーになった方や、ご家族のひきこもりと不登校を経験された方の話に励まされた
- ・努力が足りない、将来が閉ざされるという偏見を考え直させる機会になった
- ・アイスブレイクで良い雰囲気が醸成されており、リラックスして聴くことができた
- ・不登校経験者、保護者、支援者などいろいろな職種や立場の方の話を聞けて良かった
- ・家族会の方の事例が理解でき、勇気をもらえた
- ・不登校の子の居場所や組織を新たに知ることができた
- ・困ったらつながる所があることが分かっただけでも安心しました

○改善してほしい点

- ・こども達が社会で自立していった例や、そうなるまでにどのような対処を行ったか、親の関わりなどについてもう少し知りたいと思った
- ・居場所や窓口などのコミュニティに参加できる状態ではない子に対してどうしていけば良いのかもテーマとして取り上げてほしい
- ・フォーラムのお知らせが直前であったため、時間の都合がつきにくかった
- ・参加者が多かったため、もう少し広い会場の方がよかった
- ・現場の先生達の考え方、対応の仕方などを聞かせてもらいたかった
- ・時間がもう少し欲しいと感じた
- ・かがやき教室の話題が多く、疎外感を感じた
- ・参加者の声が出せる時間があればよかった
- ・事前に質問やアンケートでテーマを設けてもいいと思う
- ・オンラインまたはハイブリットだと参加しやすい

○その他ご感想

- ・定期的を開催して地域との連携を深めていければいいと思う
- ・頑張っている人が迷わず思い出し、困ったらあの人の所に行ってみようと思うような存在でいたいと思った
- ・多くの方が参加しており、今日的な課題であることや取り組みへの期待感を感じた
- ・「こども・若者相談窓口」が利用者の中で広まるだけでなく、社会の常識的な見方や偏見を変え、温かく住みやすい横手を作ることに貢献してほしい

○孤独・孤立に悩む人をなくすために必要だと思うこと

- ・窓口を訪れる利用者が活動できる場所や社会とつながりが持てるシステムを、市で提供・援助する
- ・悩みが小さいうちに応援してくれる方と繋がれること。人材を増やしてほしい。
- ・孤独・孤立に至る前に、誰かが関わりを持てるよう学校・職場・地域で気を遣える社会になること。時にはお節介りも必要かも。
- ・SNS を活用した社会的サービスの提供
- ・大事な人、心をゆだねられる人、頼れる人、そんな人を一人でも見つけられること
- ・教員の意識改革や学校教育の改善（地域の未来を担う人材育成に対する理解や、保護者との関係づくりが進むような教育施策の実施）
- ・相談窓口一覧の定期的な配布
- ・悩み方を伝える事
- ・子どもたちが家族以外に接する大人である教師が、子どもが失望しないような、普通に話せる大人になること
- ・困ったらいつでも声をかけてね、という存在や場所があること。「こども・若者相談窓口」があり心強い
- ・関係するいろいろな機関が連携して進めること
- ・周りの人のちょっとした気づき、気になったことは話しかけてみる
- ・興味のあることで誰かと繋がれること。そこから徐々に外に目を向けられれば…
- ・安心して働ける場所があることや仕事を通して自分の役割があることに気づけること
- ・一度相談に行った後のサポートが少ないと感じるので、定期的な連絡が欲しい
- ・窓口に来ることができないが助けてほしい人に対する支援
- ・支援施設等に、平日の日中以外の相談で利用できるような時間や曜日を設けてほしい
- ・人々がひきこもりに対する偏見を持たないこと
- ・今回のような会に多くの市民が参加し、自分事として教えられ、隣人にも優しい視点で関われるようになること
- ・なくさなくてもいいが、「孤独・孤立に悩む人」「ひきこもり」とレッテルを張って差別しきざすことをなくしたい